

○ メッセージをいただいた本 ○

タイトル	著者名	出版者	出版年	書誌ID	職員よりメッセージ	お客様より、感想または図書館へのメッセージ
絵でみる江戸の町とくらし図鑑	善養寺 ススム/ 絵・文；江戸人文 研究会/編	廣濟堂あかつ き株式会社出 版事業部	2011	0012300166	江戸の町のさまざまなものが描かれた、全ページにわたるカラーイラストを見ているだけで楽しい本です。花のお江戸に住む人々の生活を「江戸の町」「御役人と刑罰」「庶民の生業」などの章立てに分け、上野の貸本屋の善右衛門さんを案内役に解説していく趣向です。当時の錦絵や文献をもとに描かれたイラストからは、今にも人々の話し声が聞こえてきそうです。また、色々な職業の人々や、6ページにもわたる大名行列の全体図なども事細かに描かれ、資料的にも見応えがあります。時代小説を読まない人でも楽しい江戸図鑑。個人的にはこれの「大阪」版が欲しいと思いました。	明けましておめでとうございます。家族で初めて市立図書館に行き、福袋を見つけました。家に帰ってから、袋を開けるのがとても楽しみでみんなでワクワクしながら、開けました。この本はイラストがたくさんあり、江戸時代の暮らしがとてもわかりやすく伝えられていました。ちょうど冬休みに小学4年生の息子とドラマーJIN一仁にはまっていたので、その時代背景とピッタリ重なり、息子もこの本を片手にドラマに出て来る刑罰や生業を確認しながら、興味を示していました。普段、息子も私も小説や絵本ばかり借りているので、こんな本もあるんだなあーと参考になりました。とてもよかったです。
地元菓子	若菜 晃子/著	新潮社	2013	0012742600	昔、関西から関東の大学に行った時「おにぎりせんべい」が売ってなくてショックを受けました。生活必需品でないにも関わらず、お菓子がどこにもあるのは、人の心を豊かにし温めてくれるからだ、この本の著者はいいます。ガイドブックにとりあげられたり、デパートで売られたりするお菓子ばかりではないけれど、日本全国、町の大小を問わず、その地方で愛されているお菓子を、多くの写真とともに紹介しています。全国の餅の旅、炭酸せんべい座談会等、著者独自の切り口で語っていて楽しい。どのページもお菓子への愛にあふれていて、各地のお菓子に会うための旅に出たくなります。	ありがとうございました。自分では中々選べない本を読む事ができて、少しだけ世界の見え方が変わった気がします。具体的に言うとロリポップ方向にです。見なれたはずの町だったのに「あそこにケーキ屋さんあったんだ。」とか「汚い和菓子屋だ。」とか「お、良さそうな歯医者さん。」といった新しい顔が見えてきました。この本の事と奥歯の痛みは忘れられないと思います。

みかんの面白いむき方 大百科	中村 孝司/編著	スモール出版	2010	0012214436	「腕時計みかん」「フラワーみかん」といった、こんな風にむいてどうするの？とツツこみたくなる、みかんのむき方が24種類もついています。むいて楽しい、食べておいしいみかんを存分に楽しんでください。	この季節にちょうど良い本で、楽しく読ませてもらい、さっそく「プレスレットみかん」を作ってみました。特に道具もいらないので、気軽に試せるのが良いですね。この福袋企画は今年初めて知りました。普段手に取らない本を借りれるのって楽しいです。用意は大変だと思いますが、大人版もあつたらぜひ利用したいと思います。
ものぐさトミー	ペーン・デュボア/ 文・絵；松岡 享 子/訳	岩波書店	1977	0000266460	トミーの家は電気じかけ。ベットから起きるのも、着がえるのもゼーんぶ機械がやってくれます。ところがある日、雷が落ちて電気が止まったから大変！トミーはどうなるの？絵本ですが、とってもおもしろい本です。私もトミーの家に住んでみたい！	トミーが可愛かったです！
鳶：上空数百メートルを 駆ける職人のひみつ	多湖 弘明/著	洋泉社	2014	0012976477	大阪出身の現役鳶職人がその生き様を美しい写真や文章で表現した一冊。高層現場での作業内容や腰道具、ニッカボッカなど、少しマニアックな鳶の世界が覗ける。天空から地上を見下ろす写真も大迫力！（もし、借りたのが高所恐怖症の人だったら、ごめんなさい…。）	良い本ありがとうございました。鳶の世界もすばらしいのですが、あと書きには言葉が出ませんでした。著者の強い想いを感じられました。

○ 他にもこんな本が福袋に入っていました ○

タイトル	著者名	出版者	出版年	書誌ID	職員よりメッセージ
今すぐ読みたい!10代のためのYAブックガイド150!	金原 瑞人/監修	ポプラ社	2015	0013850265	中高生くらいの10代におすすめするブックガイドが出版されました。大人が子どもにおすすめする本ではなく「これ、おもしろいから、よかったら読んで!」という気持ちが伝わるブックガイドです。なんと154冊ものってます。どれから読もうか悩む人におすすめです。
チーム[1]	堂場 瞬一/著	実業之日本社	2010	0012197391	新年のスポーツと言えば「箱根駅伝」!ぜひ、テレビを見る前に、この小説を読んでほしいです。文字で、ここまでスポーツの厳しさ、熱さ、達成感を伝えられるのか、と驚いた一冊です。
家守綺譚	梨木 香歩/著	新潮社	2004	0010687956	亡くなった友人の実家の守りをするようになった主人公が、日々訪れる不思議な何かとの交流を描いた本です。サルスベリに片思いをされたり、カッパが訪れたりして、ゆったりした時間の流れを感じることができます。こたつでゆっくり読んで欲しい一冊です。
幕が上がる	平田 オリザ/著	講談社	2012	0012623971	高校演劇に夢中になる少年少女たちを描いた、とにかく熱い!物語です。劇中劇に使われているのは「銀河鉄道の夜」(宮沢賢治)。この劇中劇が想像できる、細かな描写は圧巻です。演劇ってこんなに体育系だったのか!と驚きました。
なりそこない王子	星 新一/[著]	講談社	1979	0070064762	星新一さんは、ショートショートの名手として有名です。しかも、ブラック・ユーモアの味付けがたっぷりされていて、冒頭「死体ばんざい」では行き場のはっきりしない死体の起こす混乱ぶりが描かれています。頭をかかえたくなくなったり、くすっと笑えたり、色んな話が詰め込まれています。ぜひ、楽しんでください。
幸せの条件	菅田 哲也/著	中央公論新社	2012	0012578870	イマイチやる気のない梢恵が、長野への出張を命じられ、バイオエタノール用の米を作ってくれる農家を探すために農業に取り組むこととなります。始めはしぶしぶやっていますが、米作りの難しさ、米のおいしさを知っていき、少しずつ梢恵の姿勢が変わっていきます。おにぎりが食べなくなる一冊です。
白をつなぐ	まはら 三桃/著	小学館	2015	0013821055	駅伝と言えば箱根駅伝が有名ですが、ここで語られるのは、全国都道府県対抗男子駅伝競走大会です。中学生から社会人(!?)まで出場する、世代の垣根のない大会。そこに出場する選手たちの心情を深く丁寧に描いています。走ることで意外と楽しいかも、と感じた物語です。

パン屋を襲う	村上 春樹/著	新潮社	2013	0012686892	新刊が出版されるごとに話題になる村上春樹ですが、長編はとっても長くて読むのに時間がかかり、なかなか読めていなかった私…。ところが短編がかなりたくさん書かれています。村上春樹を初めて読む人に、この本はおすすめです。とっても変で、殺伐とした空気の漂う物語を、おたのしみください。
痕跡本のすすめ	古沢 和宏/著	太田出版	2012	0012442089	古書の楽しみ方に、中身を読まず・前の持ち主の読んだ跡を探していくという方法があるのか！と目からウロコが落ちた本です。書き込み、しおり代わりにメモなど、こんなにあるのかと驚きました。くれぐれも図書館の本には跡を残さないでくださいね。
THE PASTRY COLLECTION -日本人が知らない世界の郷土菓子をめぐる旅-	林 周作/著	KADOKAWA	2014	0012997777	デパートや洋菓子専門店のショーケースに並んだ、キラキラの目にも美しく華やかなケーキもよいですが、一見地味なお菓子にも魅力はあるもの。たとえていうなら、大福やみたらしだんごのような…。この本では、日本ではそれほど知られていないけれど、世界各国の地味ながら味わい深いお菓子が紹介されています。16か国67種類の郷土菓子(レシピつき)。それらのお菓子から、著者が妄想した小話もついていて、これにもなんだかとぼけた味わいがあります。
諜報の天才杉原千畝	白石 仁章/著	新潮社	2011	0012244220	第2次世界大戦下、シンドラーと同じく大量の「命のヴィザ」を発行し、多くのユダヤ人を救った杉原千畝の、知られざる諜報者としての一面に光を当てた本です。諜報と聞くと、国家間で暗躍するスパイや陰謀を想像しがちですが、そういった謀略とは違い正しい諜報(インテリジェンス)活動というのは「地道に情報網を構築し、その網にかかった情報を精査して、未来を予測していく。そしてさらに一歩踏み込んで、予想される未来において最善な道を模索する」ということだと知り、驚きました。著者は外務省資料館に勤務し、外交電報の山など膨大な資料を読み解き、杉原の諜報者としての驚異的な能力・功績について紹介しています。外交に必要な能力とは何かということについて考えさせられます。
科学の世界のスケール感をつかむ -もしも地球がメロンの大きさだったら-	小谷 太郎/著	ベレ出版	2013	0012798176	本書は、科学の世界の途方もないスケール感を身近なものに例えて解説する。もしも地球がメロンの大きさだったら、もしも花粉の粒が100トンの重さだったら…。見開きいっぱいのゆるいイラストが理系への苦手意識を和らげてくれる。
ロボットは東大に入れるか	新井 紀子/著	イースト・プレス	2014	0013101281	人工知能「東ロボくん」が全国センター模試に朝鮮した。本書はその結果や偏差値などを掲載し、人工知能について解説する。アメリカでの株取引や大学の小論文の採点にも人工知能が使われているというから驚きだ。人工知能の強みと弱みがよく分かる。
461個の弁当は、親父と息子の男の約束。	渡辺 俊美/著	マガジンハウス	2014	0012972954	ミュージシャンでシングルファーザーの著者が、息子のために作ったお弁当は3年間で461個。本書は、その内の461個を写真付きで掲載し、エピソードなどを綴る。週末の地方ライブ明けに作った弁当や、恋に悩む息子のためのダイエット弁当など、親子の愛情が伝わり、温かな気持ちになる。

五感で学べ -ある農業学校の過酷で濃密な365日-	川上 康介/著	オレンジページ	2011	0012323306	タネのタキイで知られるタキイ種苗が全寮制農業高校を経営していたとは知りませんでした。著者は折々に学校を訪ね、いっしょに農作業もしながら一年間の学校生活取材します。農作業を通して助け合い、ぶつかりあい、信頼を築いて成長していく姿に、読んでこちらの胸まで熱くなります。荒川弘の『銀の匙』の世界が本当にあるんだ！という気持ち。校長先生をはじめとする先生方の、それぞれの資質を見抜き、育てていこうとする指導にもじーんとします。
犬たちの明治維新 -ポチの誕生-	仁科 邦男/著	草思社	2014	0013039971	「犬の名前はなんでポチ？」そう思ったことありませんか？本書は、西南戦争での西郷隆盛のエピソードなど、歴史文献中の犬に注目した力作だ。西洋の犬を「カメ」と呼んだ理由や、「ポチ」という名が流行った理由など、驚きがいっぱい！日本の犬にも開国があり、幕末があり、明治維新があったんだ！
トイレットペーパーおりがみ -トイレではじまる新しいコミュニケーション-	東大折紙サークル「Orist」/著	講談社	2011	0012237456	トイレに行っている間にここまで折れたらめっちゃくちゃすごい！と思います。次の人が楽しく使えるように、あなたもトイレットペーパーおりがみを試してみませんか？
変り兜 -戦国のCOOL DESIGN-	橋本 麻里/著	新潮社	2013	0012807220	やあやあ！我こそは「バニー男子」なり！変わり兜とは、戦国時代に発展し、江戸時代以降も作られた不思議な造形の兜のことだ。水牛の角や孔雀の羽、茄子のへた(なんで?)を模したもの等、そのデザインにシビれる。兜の写真に添えられたキャッチコピーも秀逸で、楽しめる！
カキフライが無いなら来なかった	せきしろ/著	幻冬舎	2009	0011889288	タイトルでふふっと笑ってしまった。どんな状況での一言か。本書には、妄想文学の奇才と漫才師であり、芥川賞作家の紡いだ自由律俳句を収録する。何気ない日常を切り取るあるある大全集か、はたまた、一行文学か。共感できる一編が、きっとある。思わず笑う。
乙女プロレス	鹿目 けい子/著	泰文堂	2012	0012416085	実はこの物語に出てくる「好きな先生に会うために文化祭で女子プロレスをする女子高生たち」って、著者の友人の実体験だそう。「え？ほんと?!」と思って、つい、読んじゃいました。
宇喜多の捨て嫁	木下 昌輝/著	文藝春秋	2014	0013330450	「高校生直木賞」ってご存知ですか？この本は、第2回高校生直木賞を受賞した作品です。宇喜多家の娘、於葉が嫁ぎ先と実家の間で強く生きる姿が描かれています。戦国の世の厳しさがひしひしと感じられる一冊です。
お伽草紙	太宰 治/作	未知谷	2007	0011402254	太宰治が大嫌いだった私が、この本を読んで、ちょっと太宰好きになりました。「こぶとりじいさん」「カチカチ山」といった昔話をモチーフにしたパロディです。意外な太宰のおもしろさに気付けるかも？

約束 -村山由佳の絵のない絵本-	村山 由佳/著	集英社	2011	0012259326	やりきれない悲しみに満ちた本です。でも、悲しいだけじゃない。胸の奥にほんのりとあたたかいものも確かに感じられます。「人生はそれでも生きるに値する」という著者のことばを感じることができる一冊です。
時の旅人 :新版	アリソン・アトリー/作	岩波書店	2000	0050161827	病気療養のため、母方に古い農場にやってきた少女ロピーは、ふとしたことから20世紀前半のイギリスから300年以上前の16世紀の荘園に迷い込みます。タイムトラベルファンタジーであり、児童文学の古典的名作ですが、私は胸キュン初恋物語としてもイイ!と思っています。イギリスのエリザベス I 世時代の物語なのですが、それまで読んだお話では、エリザベス側から語られる物語を読むことが多かったため、エリザベス女王の政敵で、スコットランド女王であったメアリ・スチュワート側の人々の物語というのが新鮮で、歴史を違う立場から見ることの不思議さに初めてふれたのがこの本でした。作品中にくりかえし出てくるイギリス民謡「グリーンズリーヴス」を聞きながらお読みください。
長いお別れ	レイモンド・チャンドラー/著	早川書房	1976	0050062615	The大人の友情。数多くのミステリランキングにも登場し、村上春樹訳『ロング・グッドバイ』でも有名な一冊ですが、ここはハードボイルドな清水訳で。主人公の私立探偵フィリップ・マーロウの強がる感じと皮肉なセリフがたまらない。